



博物館だより

No. 215 2013. 3

ミニミニマインズ

平成25年度企画展 鉱業博物館出張展示

こう 鑛のきらめき

日時 平成25年4月3日(水)～5月19日(日)
10:00～18:00(金・土は20:00まで)

会場 新秋田県立美術館 1Fギャラリー

入場料 無料

平成25年4月3日より平成25年度企画展を開催します。今回は新秋田県立美術館との連携展示で、鉱業博物館初の試みとして街中へ移動しての開催です。「鑛のきらめき」と題して、鉱石・鉱物そのものの美しさや、「鑛」にまつわる様々なきらめきにスポットを当てて展示いたします。また同会場にて日本画家 村上 裕二氏を招いての特別講演会や、見て体験する楽しいワークショップも企画していますので、こちらもぜひお越し下さい。

■ 特別講演会「天然鉱石から生まれた岩絵の具」

日時 4月21日(日) 13:00～
講師 村上 裕二氏(日本画家)

〈プロフィール〉 1964年東京生まれ。日本画家。東京藝術大学にて故・平山郁夫氏に師事。平成9、11年日本美術院賞(大観賞)を受賞。その後出家し仏門に帰依する。日本美術院同人。シルクロードの仏教遺跡の壁画や、源氏物語絵巻の模写に始まり近年はウルトラマンを題材に描いて話題を呼んでいる。

参加無料
事前申込不要

■ ワークショップ「石から絵の具を作ってみよう！」

日時 4月27日(土) / 5月12日(日)
13:00～

講師 新秋田県立美術館職員

日本画で用いる岩絵の具は、鉱物を粉末状に砕いたものです。皆さんも天然の石が持つ美しい色を楽しんでみませんか？参加ご希望の方は下記までお申し込みください。

各回20名
材料費
500円

…………… 特別講演会・ワークショップ問い合わせ先 ……………

新秋田県立美術館 TEL 018-853-8686 FAX 018-836-0877



企画展ポスター

企画展展示物 の中から 輝安鉱 (きあんこう)

輝安鉱は日本を代表する鉱物です。鉛色の金属光沢を持ち、多くは塊状ですが柱状から針状の結晶でも産出します。柱状単結晶のものは美しい光沢と細長い形状から日本刀のようだと形容され、飾り物としても人気があります。

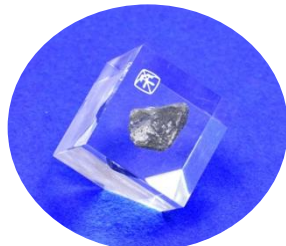
愛媛県の市ノ川鉱山では、かつて大型で美しい輝安鉱結晶が産出し明治期には多くの標本が海外に流出しました。海外での評価は大変高く、イギリス自然史博物館にも市ノ川鉱山産のものが展示されています。

硬そうな見た目とは異なって、爪でかいても傷が付き、長いものは曲げられるほど柔らかく、ろうそくの炎でも溶ける性質を持っています。

今回展示を予定している右の標本は、多方向から成長した柱状の結晶が複雑に絡み合って独特の構成美を生み出しています。自然の織りなす独創的な形や輝きをぜひご覧ください。



鉱業博物館オリジナルグッズの紹介



黒鉱文鎮
● 5 cm × 5 cm × 5 cm
● ￥1,620

来館の記念やプレゼントにいかがですか？



鉱業博物館のオリジナルグッズとして人気のあった黒鉱文鎮が復活しました。現在では手に入れることの難しい秋田を代表する鉱物である黒鉱を透明アクリル樹脂に封入しました。工学資源学部のシンボルマークも入っています。

4月よりミュージアムショップとインフォメーションセンターで販売いたします。

平成25年度 サイエンスボランティア募集中

- 活動内容：見学者への案内と説明
見学者へのサポート
館内環境整備等のサポートなど
- 活動期間：1年間
- 募集対象：高校生以上の方
- 募集期間：平成25年1月25日(金)
～3月29日(金)
- 申込み先：鉱業博物館事務室までご連絡ください。
(土日祝日を除く9時～16時)

TEL 018-889-2461

E-mail w3admin@mus.akita-u.ac.jp

平成25年度サイエンスボランティアを募集しています。科学はちょっと苦手という方や、ボランティア活動は初めてという方も大歓迎いたします。高校生以上の方であれば、年齢や性別、職業、学歴などに関わりなく、どなたでもご参加できます。年度初めに開かれる講習会では、博物館のこと、展示標本のこと、活動内容などについて解説しますので、お気軽にご参加ください。今回参加してみようかなとお考えの方、また引き続き活動して下さる方も毎年度の更新となっていますので事務室までご連絡ください。

見学案内のボランティアには多くのお礼の言葉が寄せられています



**4/20(土)
21(日)**

無料開放の
お知らせ

4月18日は「発明の日」です。政府では科学技術への理解と関心を深め、科学技術の振興を図ることを目的に、この日を含む1週間を「科学技術週間」と定めています。週間の催しとして全国各地で科学の楽しさに触れられる様々なイベントや講演会などが開かれています。当館では例年、多くの方に来館していただくように無料解放を実施しています。

今年も4月20日(土)、21日(日)に無料開放日を設けましたので、ぜひ来館ください。博物館へと連なる桜並木のつぼみもほころび始めていることでしょう。暖かなこの季節にじっくりと見学してみませんか。



第54回科学技術週間標語

何でだろう？
そう思えばほらスタートライン

標本の紹介

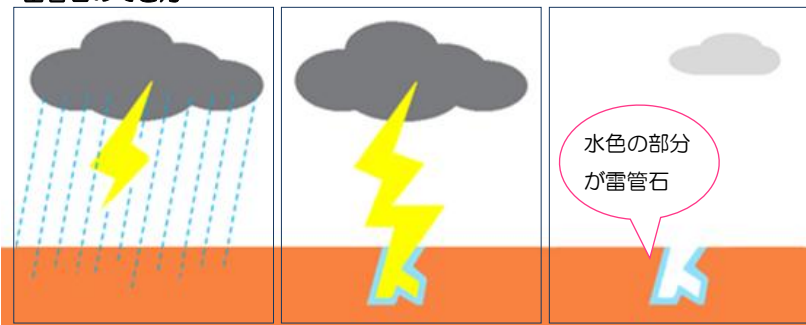
らいかんせき
雷管石

今回は雷管石を紹介します。ミニミニマインズ1月号(No.213)の「これは一体何？」で取りあげた不思議な物体の正体です。

雷管石は、落雷により一瞬のうちに地表の砂などが溶けて、電流の流れた砂の部分が通路のようになり、それを取り囲む周囲の溶けた砂が急速に冷えてガラス化したものです。文字通り雷のエネルギーを受けてつくられた管状の石です。もっとも短期間で作られる石と言えるでしょう。

形状は様々ですが、木の根のようなものや、枝状に分かれているものなど不思議な形をしています。6億ボルト以上の電流が必要とされ、主にアメリカ西海岸やアフリカのサハラ砂漠で発見されており、日本では唯一北海道の岩見沢市で発見されています。当館に展示しているものはアメリカ合衆国産出のもので、北海道大学の藤吉 康志先生より寄贈されました。

雷管石のでき方



- ① 雨が発生し、砂地に水分がしみこむ
- ② 濡れた砂地に落雷する
- ③ 雷の通った後の周囲の砂がガラス化して筒状の形に残される

ミニミニマインズ
1月号(No.213)
「これは一体何？」の
クイズの答えは…



- ① 花の名前がついた不思議な形の石こう (サ)ハ(ク)ノ(ハ)ラ
- ② かんかん石とも呼ばれる..... (サ)又(カ)イ(ト)
- ③ 地層中に埋もれた樹木が化石化した..... (ケ)イ(カ)ボ(ク)
- ④ 調味料として使われる..... (カ)ン(エ)ン
- ⑤ ものが二重に見える透明な結晶..... (ホ)ウ(カ)イ(セ)キ
- ⑥ 宇宙からのメッセージ..... (イ)ン(セ)キ

答え (ラ)イ(カ)ン(セ)キ



筒状部分の直径は最大で10cmほど